

みやぎ復旧・復興工事ゼロ災運動 推進協議会だより(平成28年8月号)

〔第2次ステージ運動スローガン〕

高めよう安全意識 加速させよう復旧・復興 達成しようゼロ災害

平成28年8月末建設業 (災害速報)

ほとんどの工事業で増加傾向となっています！

平成28年8月末の全産業の死傷者数(休業4日以上)は、1,468人と対前年同期比で+114人(+8.4%)と先月より更に増加しています。建設業は、262人と対前年同期比で+33人(+14.4%)と増加し、各工事業の種類分類では、「鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業」と「その他の建築工事業」を除いた工事業で増加となっています。

また、死亡者数は、全業種で12人と前年同期比で2人の増加となっており、建設業では4人と前年同期比で3人増加となり大幅に増加しています。

前年度の減少傾向から、一転して増加となっており、今後の現場の安全管理の強化が求められます。(緊急メッセージに基づく再点検をお願いいたします。)

(災害速報の詳細は、宮城労働局HP(災害統計)に9月中旬掲載予定です。)

「緊急メッセージ」

平成28年9月 宮城労働局

労働災害増加に歯止めを！

『高めよう安全意識 加速させよう復旧・復興 達成しようゼロ災害』

県内の建設業の労働災害は、震災後、平成24年に大幅に増加した後、皆様の御努力もあり、平成27年まで3年連続減少し、膨大な工事量にもかかわらず平成24年対比29%の減少を達成しました。

しかしながら、本年に入り、7月末現在で死亡4人を含む232人の死傷災害が発生して、一転増加に転じ、前年同期比15.4%の増加となり、復旧・復興工事現場での死亡労働災害も続発する大変憂慮すべき状況となっております。

一刻も早い復旧・復興と工事の安全作業の両立、日々汗して作業に取り組む労働者の皆様やその御家族に労働災害で辛い思いはさせないという開始当初の強い決意が薄れていないか、セカンドステージに入った本ゼロ災運動がマンネリに陥っていないか、災害が増加している今、省みることが重要となっております。

再度「安全第一」の精神を、経営トップから現場の作業員の皆様まで共有し、下記に留意して基本に立ち返った安全衛生管理を徹底していただき、年度後半の繁忙期、労働災害ゼロを目指していただきますようお願いいたします。(※裏面に続きます)

みやぎ復旧・復興工事ゼロ災運動推進協議会
(事務局 宮城労働局労働基準部健康安全課)

「緊急メッセージの内容」

記

1. 経営トップによる安全衛生活動、年間安全衛生計画の履行状況の確認と是正指導の実施
2. 統括安全衛生責任者、元方安全衛生管理者、安全衛生責任者等の定期巡視、危険防止対策の実施等の職務履行状況の確認
3. 職長、各種作業主任者の作業指揮等の職務履行の実施状況の確認
4. 危険作業等に関する各種有資格者・特別教育修了者の配置状況の確認
5. 安全作業マニュアルの作成・見直しとこれに従った安全作業の徹底の確認
6. 車両系建設機械、車両系荷役運搬機械等との接触による災害防止、安全通路や立入禁止区域の設定、誘導者の配置等の徹底
7. 車両系建設機械、移動式クレーン等の転倒防止対策の確認と徹底、転倒防止保護構造が設置された車両系建設機械とシートベルトの使用の励行
8. 移動式クレーン等作業での運転合図の徹底、荷との接触等危険箇所への立入禁止措置の徹底
9. 高所作業での墜落防止設備の設置、安全带等の正しい使用の徹底

**各監督署管内において、次の災害が多発しています！
現場で十分な対策を講じてください。**

1. バック・ホーの転倒災害

(路肩位置等の確認不足、運転の不慣れ、つり荷走行、過荷重、急旋回や急勾配によるもの)

2. トラッククレーンなど移動式クレーンの転倒やジブの折損災害

(旋回操作ミス、過荷重、起伏リミットの未作動等整備不良等によるもの)

3. 土砂崩壊災害

(溝掘削や擁壁の掘削作業中の法面崩壊など土留め対策が不十分によるもの)

4. 墜落・転落災害

(手すりの未設置、未固定のはしごや脚立、昇降タラップ等によるもの)

5. 激突災害

(玉掛けワイヤーの外れ、トラックの逸走等、積込作業中の荷等によるもの)

6. 挟まれ災害

(ドラグショベルの運転操作ミス等、玉掛けワイヤーの反転等によるもの)

(全般的な留意事項として)

- 安全対策の事前検討不足、現場の作業者の配置が不適切
- 現場内のコミュニケーション不足
- ヒューマンエラーの多発(慣れによるマンネリ化)
- 重機オペレータ等の経験不足、作業相互間の連絡調整不足等が挙げられます。

再度、現場の点検を励行し災害ゼロをめざしましょう！